

いいもの成らせるさくらんぼ便り

Vol.1 いつも通りは危険！今年の摘芽は要注意！！

今年は凍霜害による枯死や双子花の発生が懸念されます。摘芽の際は例年よりも花芽数を多く残そう！常襲地域では摘花・摘果による着果調整も検討しよう！

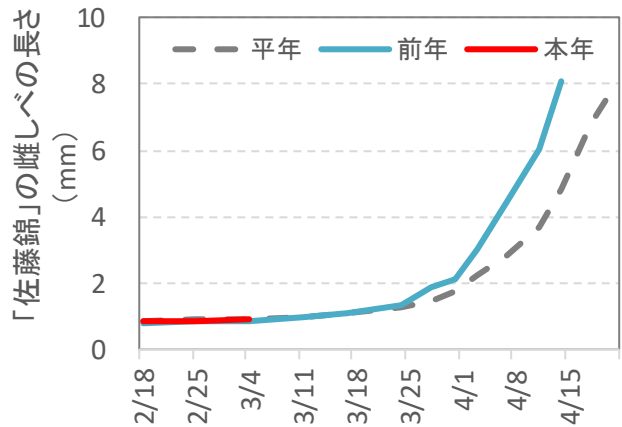
1 現在の生育状況

- ・現時点での生育は前年並である。
- ・本年は記録的な暖冬少雪傾向となっており、前年のように発芽が早まった場合、凍霜害に遭うリスクも高まる。

◆「佐藤錦」の雌しべの長さ
(R6.3.4現在 山形園研)

本年	前年	平年
0.89mm	0.88mm	0.94mm

生育前進下では防霜対策も早める必要あり

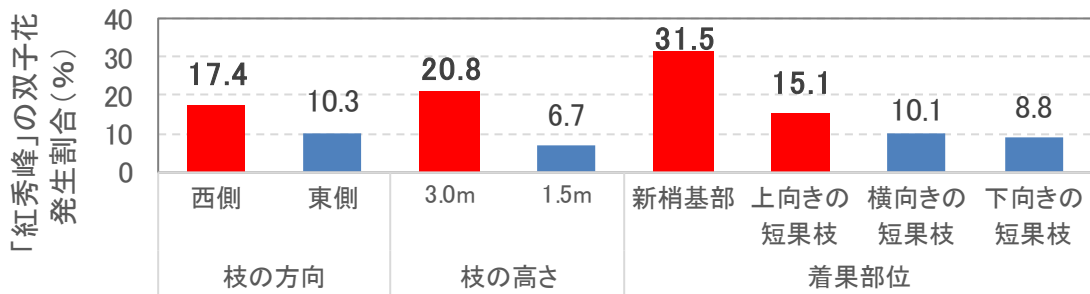


2 双子花の発生状況

■双子花の発生状況（県内8園地調査）

「佐藤錦」：平均 6.7%、「紅秀峰」：平均 13.2%

- ・双子花の発生は園地間差が大きい傾向である。樹の中では、日当たりの良い方向の枝や樹の上部、上向きの花束状短果枝や新梢基部等での発生が多い傾向であった。



3 本年の摘芽の程度

- ・凍霜害による枯死や双子花の発生が懸念されるため、例年よりも花芽の数を「1芽」以上多く残すようにする。
- ・樹勢が弱い場合は、枯死や双子花の発生割合が高くなる場合がある。特に日当たりの良い枝では双子花の発生が多い傾向のため、芽数を多めに残す。
- ・例年、着果が不足する常襲地域では、摘芽を控え、摘花・摘果で対応する。

◆「紅秀峰」の摘芽程度の例

	目通り	樹上部
本年	3～4芽	2～3芽
例年	2～3芽	1～2芽

+1芽

※新梢基部は双子花の発生が多いため花束状短果枝よりも花芽を多く残す



凍霜害対策もかねて、下向きの花芽を1芽多く残した例

4 早期落葉した園地では花芽の枯死がみられます

- ・早期落葉した樹の上部や樹勢の弱い樹などを中心に、白化した花束状短果枝が一部でみられる（「紅秀峰」で発生が多い傾向）。
- ・白化したものは、正常なものに比べ、枯死している割合が高い傾向がみられる。



花芽を横断

白化した
花束状短果枝

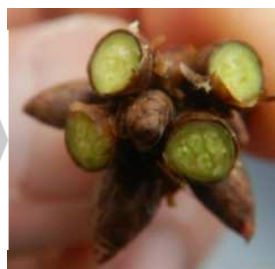


花芽の半数程度
が枯死



正常な
花束状短果枝

花芽を横断



花芽の枯死なし

白化した花束状
短果枝が多い場合



枯死の発生状況
を確認する



枯死が多い場合は摘芽を
控え、摘花・摘果で対応する

5 低温アラートシステムを積極的に利用しよう

令和6年3月15日（金）から運用開始予定

- ・県内の樹園地等に約50台の小型気象観測装置を設置
- ・観測地点ごとに
 - ① 現在の気温を確認できる
 - ② 自分で設定した気温になるとメールで通知が届く
- ・利用は「やまがたアグリネット」から（会員限定、会員登録・会費は無料）



↑会員登録は
こちらから



↑アラート設定
はこちらから



↑マニュアルも
ご活用ください

6 休眠期防除もしっかりと

- ・近年、カイガラムシ類等の発生が目立ってきているため、計画的に剪定作業や枝片付けを進め、休眠期防除を適期に実施する。
- ・カイガラムシ類の発生が多い園地では、薬剤散布に加え、寄生された枝にブラシがけを行う。
- ・灰星病や炭そ病防除のため、樹上ミイラ果や枯死枝を除去し、適切に処分する。

★ 慌てず、焦らず、農作業は『安全第一』！

高所作業に注意！作業は適宜、休憩をとりながら進めましょう！

村山総合支庁農業技術普及課 ・ 西村山農業技術普及課 ・ 北村山農業技術普及課

TEL 023-621-8291

TEL 0237-86-8215

TEL 0237-47-8630

山形さくらんぼブランド力強化推進協議会（事務局：農林水産部園芸大国推進課・農業技術環境課）